



WASEDA ROPE

## 平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業 推進校実施報告書

- 1 学校名 : 八代市立第一中学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 2 月 7 日 (火)
- 3 対象 : 全校生徒 (730 名)
- 4 派遣パラリンピアン : 廣瀬 誠さん (柔道 アテネパラリンピック (2004) 銀メダル 北京パラリンピック (2008) 第 7 位 ロンドンパラリンピック (2012) 第 5 位 リオデジャネイロパラリンピック (2016) 銀メダル)

### 5 授業内容 : 講演

2017 (平成 29) 年 2 月 7 日 (火) に、八代市立第一中学校にて、全校生徒 730 名を対象とし、パラリンピックの柔道競技に 4 大会連続で (アテネ・北京・ロンドン・リオデジャネイロ) 出場し、2 つの銀メダル (アテネ・リオデジャネイロ) を獲得された廣瀬誠さんにご講演いただきました。

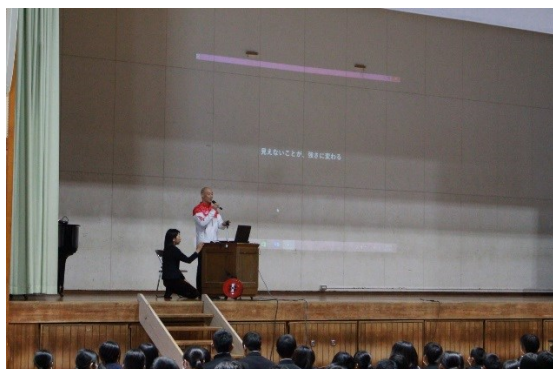
廣瀬さんは、高校時代から柔道を始められ、柔道の楽しさに惹かれていったそうです。また、高校時代には、試合でなかなか勝つことができなかつたため、他の選手よりも少しでも多く練習するように心がけられていたと述べられました。一方で、高校 2 年生の頃から病気で徐々に目が見えなくなっていき、日常生活を送る上でこれまでにできていた様々なことができなくなっていっていったそうです。しかし、目が見えなくなっていっても、柔道だけは、今まで通りにできましたと言います。そのため、廣瀬さんにとって柔道は、自身の生きがいとなっていったとお話しされました。

講演では、4 つのキーワードを用いて、生徒たちに伝えたいことについてお話しされました。1 つ目のキーワードは、「ありがとう」で、感謝することの大切さについて述べられました。廣瀬さんは、自身の経験から、目が見えたり、手足があつたり、友達がいたりすることが、「当たり前」のことではないことに気づき、すべてのことに対し「有難さ」を感じることができるようになったといます。そして、日常の「当たり前」を「ありがとう」に変えることで、人生がより豊かになるのではないかと、というお考えを述べられました。廣瀬さん自身も「当たり前」を「ありがとう」に変えることを実践することによって、自身の障害に対して「不便だけど不幸ではない」と思うようになったといます。2 つ目のキーワードは、「やらない後悔よりもやった後悔」で、失敗を恐れずに挑戦することの大切さについて語られました。3 つ目のキーワードは、「日々の努力の大切さ」で、日々の努力によって生涯の宝物になる「仲間」が生まれ、人生がより豊かになると述べられました。4 つ目のキーワードは、「自分を好きになる」で、自分を大切にすることで他人も大切にできるようになることについてお話しされました。

講演後の質疑応答の時間では、「やらない後悔よりもやった後悔」という廣瀬さんのお言葉を早速実践しようと、多くの生徒が積極的に挙手しておりました。廣瀬さんのお言葉が多くの生徒たちの心に響いていたことを実感できた瞬間でした。

事後のアンケートでは、「後悔しないように何事にも挑戦していきたい」といった記述が多くみられ、廣瀬さんのメッセージが生徒たちにも届いているようでした。

## 6 授業の様子



講演する廣瀬さん



銀メダルを掲げる廣瀬さん



視覚障害者用の時計を見せる廣瀬さん



廣瀬さんに質問する生徒



廣瀬さんに銀メダルをかけてもらう様子



銀メダルをかけた感想を述べる生徒



代表生徒によるお礼の言葉



集合写真